京都新聞賞

誹謗中傷のない社会への第

京都府・京都市立七条第三小学校 六年 大野 季夏

たくさんの人が被害にあっている。 現在、世界中で人種差別や男女差別、偏見や誹謗中傷が起きて、

解することが大切だと考える。 この事実に対して、私は自分が発する言葉の重みを一人一人が理

により、受け手となる人は傷ついていることも想像できる。を考えることなく、自分の言いたい主張を投稿している。その言葉のを見ている側が自分の姿が見えないことを利用して、言葉の重みことがあるからである。SNSに投稿している側の人たちは、SNLとがあるからである。SNSに投稿している側の人たちは、SNLとがあるのように考える理由は、若者がSNSでの誹謗中傷により

いる。 自分がされて嫌だなと思ったりしたことも経験して葉を聞いたり、自分がされて嫌だなと思ったりしたことも経験して実際、私も学校生活の中で傷つけるつもりはなくても、傷つく言

ら、絶対に使わないという言葉をリストアップしておき、会話する考えて会話することは難しい。だから、自分の中で人を傷つけるかそこで私自身にできることを考えてみた。それは相手の気持ちをの想像以上に傷つくことにつながってしまうことも少なくない。たとえ冗談や軽い気持ちであっても、言ったことが相手には自分

なかなか減らないだろう。しかし、私だけが気を付けていても、誹謗中傷に悩まされる人は

時に心がけるようにしたい。

では、今の私にできることはどんなことだろうか。それは、友だ

らすことにつながるのではないかと考える。とすことにつながるのではないかと考えると、私がリストアップした言葉を使わずに誰も傷つけない言葉を使ってと考えると、私がお手本になればいいんだという考えに行き着いた。ら注意する勇気はもてず、なかなか難しい。私にできることは何かている人を見たり、聞いたりする人がいたとしても、その場で私かげたりすることだと考える。しかし、クラス内できつい言葉を言っちとの関係に悩んでいる人の話を聞いてあげたり、相談に乗ってあちとの関係に悩んでいる人の話を聞いてあげたり、相談に乗ってあ

のではないだろうか。つながり、人を傷つける言葉を軽い気持ちで発する人は減っていく校を卒業して社会に出た時に、もっとたくさんの人に広まることにして広がり、そしてクラス全体、学年全体に広がることにより、学くのために、私の仲のよい友だちから仲のよいグループにマネを

らえ方によっては時に凶器になってしまう。(はじめにも述べたように、言葉は人によってとらえ方も違い、と

発する責任を自覚して、成長していきたい。の使い方をまねしてもらえる人になるために、言葉の重みと言葉をまって相手を傷つけてしまうこともあるかもしれないが、よい言葉してそんなつもりはなくても、よくない言葉を相手に投げかけてしことになる。その中で、気が合わない人もたくさんいるだろう。決これから私は、学校を卒業して社会に出てたくさんの人に出会う

また、自分が悩まされている問題を減らしていくために、自分が抱え込まずに、身近な人に相談してほしいということである。いる人もいるだろう。そのような人たちに伝えたいことは、一人で今、私と同じくらいの年齢の人でもSNSでの誹謗中傷に悩んで

ることを強く願っている。れからの社会が誹謗中傷の被害で苦しむ人がいない明るい社会になまず行動して、周りに人に広めていってほしい。そして、何よりこまた、自分が悩まされている問題を演らしていくために、自分か

京都新聞賞

もう一度を無くすために

京都府・長岡京市立長岡第三中学校 二年 福居

史はおり

コンクリートきか投入事件」のLLです。NEWSポストセブンにつかりついた。 「非行や犯罪をする仲間との関係が続いた」「学業や仕事を続けられていた」「落ちついて生活できなかった」など自分の考ない、仕事が見つからない」「処分を甘く考えていた」「問題にぶつかなくするために「犯罪者だから〇〇」という考えをなくすべきだということを提案します。 ということを提案します。 かると諦めていた」「落ちついて生活できなかった」など自分の考ない、仕事が見つからない」「処分を甘く考えていた」「問題にぶつかなくするために「犯罪者だから〇〇」という考えをなくすべきだということを提案します。 一九八三年に起きた「女子かると諦めていた」「問題にぶつかると諦めていた」「落ちついて生活できなかった」など自分の考ない、仕事が見つからない」「処分を甘く考えていた」「問題にぶつかるということを考えた理由は、一九八三年に起きた「女子かると語かである。

良くないように思いました。この再犯の理由は、 り退職。その後暴力団の一員となってしまった。という所が一番 た。というものです。私はこの事件を聞いて、 期で出所し、刑務所内で学んだーT関係の仕事についたが、前科が 思います。Bは当時十七才で懲役五年以上十年以下の量刑を受けま の後を調べました。そのうちBのことについて、今回は話したいと 思いました。ですがもう少しこのことを知りたいと思い、四人のそ 遺棄した事件です。私はこの情報だけでも、残酷で悲しい事件だと 殺害。遺体をドラム缶に詰めてセメントを流し、東京都の埋立地に けられない、仕事が見つからない」「落ちついて生活できなかった」 まい、二〇〇四年Bは逮捕、監禁致傷で懲役四年の実刑判決を受け 知られ人間関係にいき詰まり退職。その後暴力団の一員となってし よると、この事件は当時学生のA、B、C、Dが少女を暴行の上: した。Bはその期間に悔悟を見せていたそうです。一九九九年に満 コンクリート詰め殺人事件」のことです。NEWSポストセブンに 人間関係にいき詰ま 「学業や仕事が続

の二つに当てはまると思います。それに刑務所で反省していても周の二つに当てはまると思います。それに刑務所で反省していても周の二つに当てはないかと思います。目の偏見、行動が人を変えてしまう一つの例だと思います。もちろん犯罪見、行動が人を変えてしまう一つの例だと思います。「環境が人をでえたが見ます。ですから、元犯罪者だからいじめて良い、ストレスだってあります。ですから、元犯罪者だからいじめて良い、ストレスだってあります。ですから、元犯罪者だからいじめて良い、ストレスだってあります。ですから、元犯罪者だからいじめて良い、そのようにあるように、犯罪者も、一般人も、同じあたたかい環境を作るのではありません。環境は私たちに私たちがどんな人間であるかを教えてくれるだけなのです。」というジェームス・アレンの名言にもあるように、犯罪者も、一般人も、同じあたたかい環境を作るのではありません。環境は私たちに私たちがどんな人間であるかなあたたかい環境の方が犯罪者の方も再犯へ手をのばすことが少ななあたたかい環境の方が犯罪者の方も再犯へ手をのばすことが少ななあたたかい環境の方が犯罪者の方も再犯へ手をのばすことが少ななあたたかい環境の方が犯罪者の方も再犯へ手をのばすことが少ななあたたかい環境の方が犯罪者の方も再犯へ手をのばすことが少ななあたたかい環境の方が犯罪者の方も再犯へ手をのばすことが少ななあたたかい環境を作る。

るべきだと思います。いと思います。なので私は「犯罪者だから〇〇」という考えをやめいと思います。なので私は「犯罪者だから〇〇」という考えをやめ他の人と同じく「おつかれさま」などと言いあえるようにすれば良ると思います。私は、「犯罪者だからいじめても良い」ではなく、環境が原因での再犯は、私たちの考えを変えることで大半が防げ

